

生ごみ出しません袋 配布対象者へのアンケート結果について

1. 生ごみ出しません袋配布事業について

(1) 事業の概要

飯田市の燃やすごみ組成調査により、一般家庭から排出される燃やすごみ袋の中身の4割程度が生ごみと推計される。また、生ごみの8割が水分と言われており、生ごみの水分を取り除いて排出することで、燃やすごみの大幅な削減につながる。

市では、家庭から生ごみを排出する段階で、生ごみの減量化に取り組んでいただくよう、生ごみ処理機器の購入に対して補助金を交付し、市民の生ごみ減量の取組を支援してきている。

これに加え、生ごみの削減意識や食品ロス削減の意識醸成につなげていくために、生ごみの削減に取り組むことを宣言した世帯に対し、「生ごみ出しません袋」を配布した。



(2) 配布対象者

生ごみの削減に取り組むことを宣言した世帯
(先着 1,000 世帯・1 世帯 30 枚配布)

(3) 配布期間

令和 6 年 8 月 20 日～令和 6 年 11 月 14 日

※【月別配布状況】 8 月：785 世帯 9 月：128 世帯 10 月：59 世帯 11 月：28 世帯

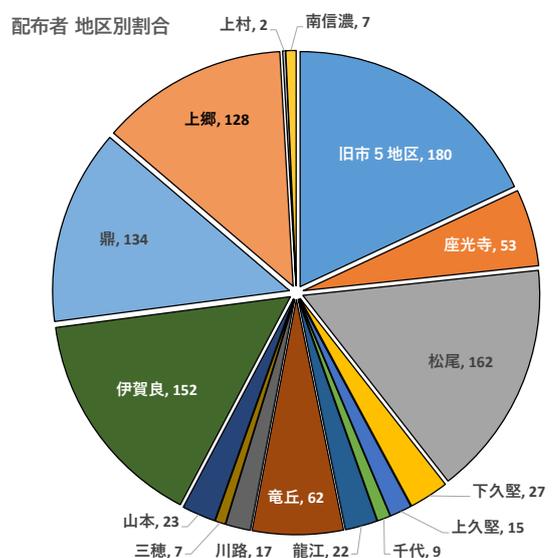
2. アンケートについて

(1) アンケート期間

令和 7 年 1 月 10 日～令和 7 年 3 月 7 日

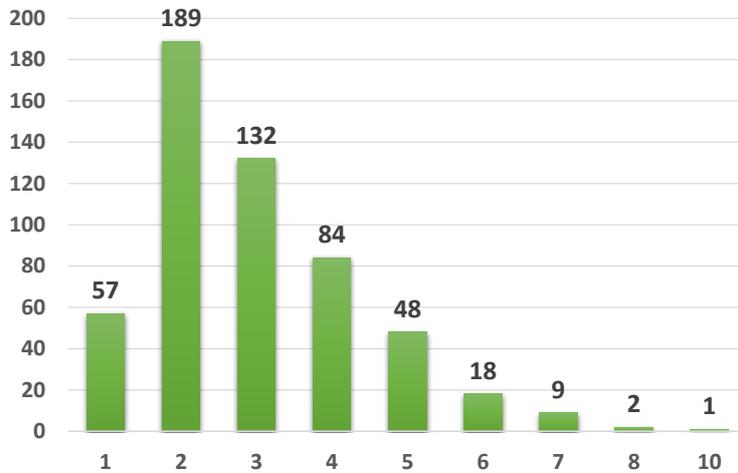
(2) 有効回答数 540 世帯 (回答率 54%)

※地区別配布者数は右表のとおり

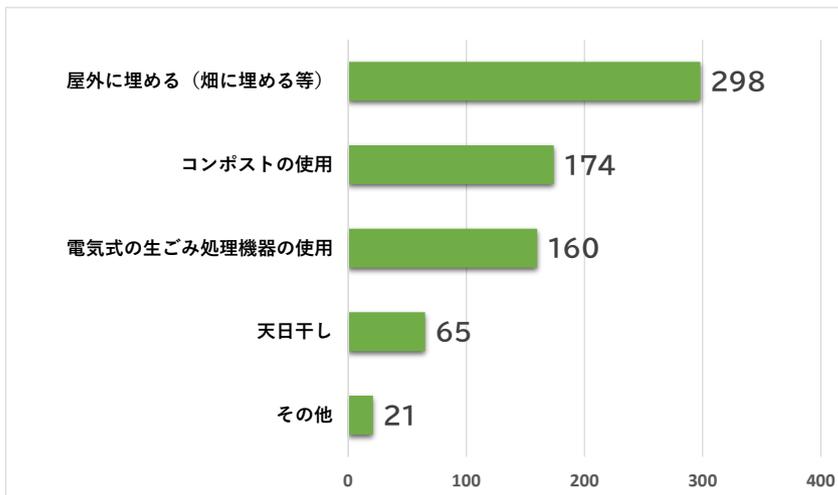


3. アンケート結果

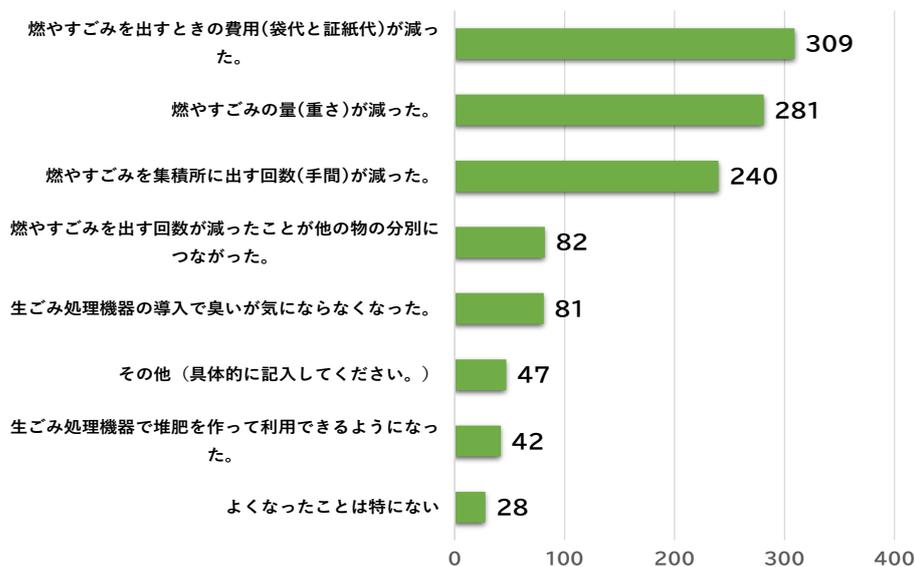
(1) ご世帯の人数は何人ですか。



(2) どのような方法で生ごみを減らしていますか。(複数回答)

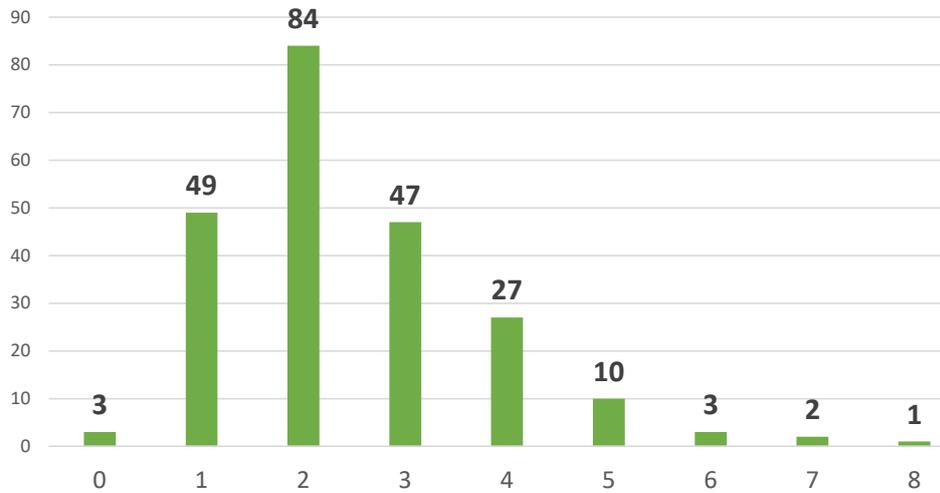


(3) 生ごみを出さないようにしてよかったことは何ですか。(複数回答)



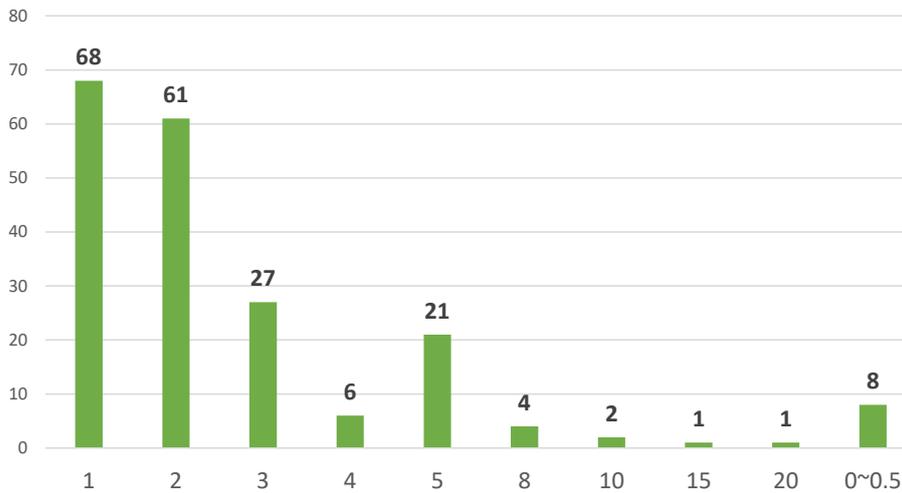
(4) 集積所にごみを出す回数はひと月当たりどのくらい減りましたか。

※ (3) で燃やすごみを集積所に出す回数が減ったと回答した方のうち

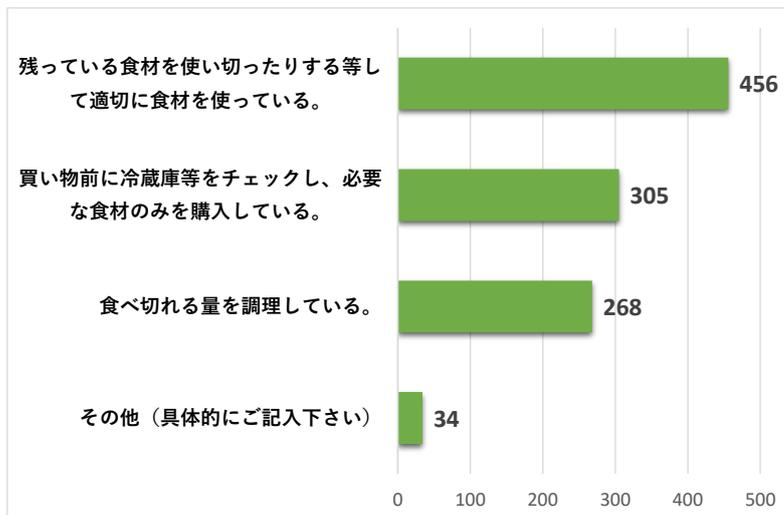


(5) 1回当たりの燃やすごみの量はどのくらい減りましたか。(kg)

※ (3) で燃やすごみの量が減ったと回答した方のうち



(6) 食品ロス削減のために取り組んだこと (複数回答)



(7) 生ごみを減らすために工夫したこと（主な回答）

- ・生ごみ処理機を購入し、相当量の生ごみが減った。
- ・コンポストを利用している。
- ・生ごみの堆肥化（畑に撒いて肥料にしている。）
- ・冷蔵庫を整理して、食材の使い忘れを減らした。（早めに使うようにした）
- ・無駄な食材の買い物はしない。食材は捨てない。
- ・野菜や果物はできる限り皮ごと食べる。
- ・野菜の芯や皮も調理して食べる。
- ・食べ残しがでないように調理する。（細かくするなどの工夫して全て使うようにしている）
- ・みかんの皮でフライパンの汚れを洗った。
- ・2人暮らしなので一玉とか一本丸々買わず半分カットの物を買っている。
- ・いただいた食べ物で溢れる場合もある。食べきれない量ならば、近所におすそ分けや、寄付することに努めた。
- ・食材が残ったら、次の日にアレンジして料理する。
- ・生ごみとなった野菜の皮等をぬらさない。
- ・えのきやしめじはカットされている物を購入している。
- ・調理方法の工夫を実施・冷蔵庫、冷凍庫の活用する。（加工して冷凍し、使い切る）
- ・ティーバッグは天日に干してから捨てる。
- ・フードドライブを利用した。

(8) その他意見、感想（集約）

- ・ごみ分別の意識が高まった。特に生ごみ削減や食品ロス削減の意識が高まった。
- ・ごみ出し回数や出すごみの量が減ることで、ごみ出し費用が削減できてよかった。
- ・袋の配布を継続してほしい。
- ・袋を販売してみたらどうか。
- ・袋が燃やすごみ小のサイズであったため、袋をもう少し大きくしてほしい。
- ・生ごみ出しません袋でごみを出す時に、所定の袋でないと注意を受けたことがあったため、生ごみ出しません袋を知らない人がいたのではないかと感じた。この袋について市のPR不足を感じた。

6. アンケート結果より

- (1) 袋の配布が、新たに生ごみを処理機器やコンポストを使って自家処理するきっかけとなり、これにより、生ごみ処理機器購入費補助金の交付件数の大幅な増加につながったものと考えられる。
- (2) 袋の使用で、ごみ排出時に袋代と証紙代が減ったという回答が最も多かった。集積所にごみを出す回数の減少や1回あたりの燃やすごみの量が減り、ごみ排出に関わる金銭的な負担が減らせることで、生ごみを始め燃やすごみ削減の意識醸成につながるものと考えられる。
- (3) 生ごみを出さないために、様々な工夫により、食品ロス削減に取り組む世帯が増え、食品ロス削減の意識醸成へのきっかけづくりになっていると考えられる。